

改善箇所のご説明

PY115(A)-26(B),PY100-26H,PY80-26H 第2ビームの第3ビーム格納用ビームサポータ装着部において、サポータと第2ビーム側板の溶接端部から疲労亀裂が発生し、亀裂が伸長した場合最悪ビーム折損に至ることが判明し、平成 18～20 年にかけてこれに対する対策工事を実施させて頂きました。

ところが、この時の補修内容が不十分と見られるビームにおいて、今般亀裂の再発が確認されました。該当部はビームサポータの陰になり外部からの目視点検が行い難い構造でありました。そこで今回サポータに亀裂点検孔を設けると同時に、前回の補修状況を確認し適切に補強処置を行わせて頂く所存です。

つきましては、今後の日常・月次・年次点検におかれましては、該当部点検孔からビーム本体側板に亀裂が発生していないかご留意頂きますようお願い致します。

なお、該当部(第2ビームのビームサポータ装着部の側板)に対して超音波探傷(斜角式)を実施した場合、亀裂が無くてもエコー反応が出る可能性が高いことを確認致しております。これはビーム内部に仕切り板が存在しこの溶接に超音波が反応しているためであり、このことから該当部のチェックは、点検孔からの目視確認が必要十分な施策となりますことを合せてご連絡いたします。

